



ペットボトルを浮き具に更衣泳(水上安全講習会)

C O N T E N T S

- ① 日韓視覚障がい青少年交流30周年
- ② 東日本大震災レポート・復興支援コンサート
- ②・③ event report 交流デイキャンプ/
韓国職員研修/西日本地区職員研修
- ③ レクリエーション指導/水の安全キャンペーン
アガペNo.65「ライフスタイルは変えられるか？」
- ④ Life 第38回
みずもとこどもクリニック 水元裕二さん③
People (地域YMCA情報)
体操チーム/新体操チーム/サッカーチーム

障がいと文化の違いを超えた交流 日韓視覚障がい青少年交流30周年

日韓視覚障がい青少年交流の始まり
YMCA日韓視覚障がい青少年交流プログラムの開始は「国際障害者年」と同じ1981年。熊本YMCAと熊本ワイズメンズクラブは、この「国際障害者年」に呼応し、視覚に障がいのある青少年に国際体験の機会を提供し、社会に有為な人材となることを願って、日韓盲学校の生徒による親善野球試合を計画しました。

国際障害者年
国連は1975年に採択した「障害者権利宣言」の趣旨に基づき、1981年を「国際障害者年」と決めました。これを機に、「完全参加と平等」をテーマに、障がい者が社会生活や社会の発展に完全に参加すること、障がいのない人々と平等な生活を営むことなど、機会の均等化を目的として、世界各国で積極的な取り組みが行われるようになりました。



1981年、野球を通じ、初めての交流



1986年、盲人柔道を実施



2000年、阿蘇で開催されたキャンプ

交流プログラムの継続
日韓盲学校による親善野球試合がきっかけとなり、それ以降、日本と韓国を交互に訪問し、スポーツ、音楽、キャンプなどを通じた交流が継続されてきました。盲人野球のほか盲人バレーボール、盲人柔道や琴・金管合奏など、これまで

徒による親善野球試合を計画しました。そして、1981年8月に、従来ポニーキャンプ(熊本県立盲学校の生徒を対象にしたキャンプ)で熊本YMCAと関係の深かった熊本県立盲学校の盲人野球チームを韓国大邱へ派遣し、大邱大学(当時は韓社大学)付属光明学校チームとの試合が行われました。

今年8月1日(月)〜4日(木)、第29回日韓視覚障がい青少年交流プログラムが韓国大邱で開催されます。現地では、光明学校の見学や、2003年2月18日に起こった大邱地下鉄惨事を教訓に、事故の再発防止に努め、防災訓練を体験できるよう市民の安全教育のために設立された「大邱市民安全テーマパーク」の見学などが予定されています。

言葉を超えての交流に感動
30年近く前になりますが、私は3回目に韓国の大邱で盲人バレーボールのプログラムが行われた時に初参加しました。8月下旬で、会場となった体育館がとても暑かったことを覚えています。その中で印象的だったのは、日韓の子どもの交流の様子です。英語と日本語、韓国語を、身振り手振りを交えて話しながら、すぐに打ち解けていく姿を見て素晴らしいなあと感じました。共通の時間を通して互いに切磋琢磨し、にぎやかに過ごした後は、例えば「もっと話したいから英語や韓国語を勉強したい」という声も聞かれ、1年後の再会が待ち遠しくなるようですね。



熊本ワイズメンズクラブ
日韓視覚障がい青少年交流
実行委員長
大村 豊さん

わたしと聖句
マタイによる福音書28章20節
「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」
いつも傍にいてくれるイエスさま

僕の趣味は海外ドラマを見ることです。刑事もの、ミステリー、化学ものからコメディなどジャンルを問いません。特に連続ドラマを見始めると時間を忘れて見てしまいます。あのドラマを見ていた時に、その中の登場人物が、このようなセリフを言いました。

「本当に信頼できる人は、こちらの思いとは関係なく傍にいてくれる人」
まさに、イエスさまはこのような方であると思いました。私たちが、悲しみの中にあっても、苦しみの中にあつても、傍らに立つて、「元氣を出して。私はあなたの笑顔が見たいんだ」と言ってくれる、それがイエスさまです。
僕自身のこととして考えてみると、気の合う人や、喜んでくれる人と一緒にいることはできるけれど、イライラした人や、明らかに嫌われてるなあと感じる人と一緒にいることは難しいと感じてしまいます。どうしても、自分の感情や、その場の雰囲気によって流されてしまうからです。
しかし、イエスさまは誰であつても、いつまでも傍にいてくれます。誰かがいつも傍にいてくれるということとは、私たちにとつてとても力強いことだと思えます。それが、神であるイエスさまなら尚更です。いつも傍にいてくれるイエスさまを心にお迎えしていただきたいと思います。

キリスト聖協団熊本教会
佐藤 龍平